

経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

(3) 豊かな福島をつくる豊福ファーム株式会社への復興ファンドの出資について

農林中央金庫 福島支店 (福島県)

新規	継続
○	
	(平成 年 月)

1 動機(経緯)	<p>当ファンドは、東日本大震災で被災された農林水産業者に長期にわたり安定した支援を行うため、農林中央金庫が平成 23 年に創設しました。</p> <p>今回の投資先の豊福ファームは、原発事故の影響が大きい福島県南相馬市でタマネギの産地化により地域復興を進めるために平成 29 年 3 月に創業した農業法人です。</p> <p>財務基盤の強化により、当社の取組みを後押ししていくため出資を行いました。</p>
2 概要	<p>当社代表取締役は、元日本プロ農業総合支援機構の職員で、復興アドバイザーとして、南相馬市へタマネギの産地化による復興を提案していました。通年で需要が高く、最も放射性物質を吸収しない農作物であるタマネギに、復興の可能性を見出したためです。</p> <p>しかしながら、試験栽培で一定の成果を収めたものの、本格栽培に取り組む生産者が現れなかったため、自らが先進地（北海道新篠津、長崎県諫早）で農業研修を受け、平成 28 年 9 月に新規就農し、平成 29 年 3 月に当社を設立しました。</p> <p>当社は国による被災地農業者支援の補助金と J A ふくしま未来からの融資を活用して先進的な機械や施設を導入し、タマネギの産地化を目指しています。</p> <p>これらの取組みが地域の農業復興と活性化に繋がるものと考え、当社に対する金融面での助言（コンサルティング機能の提供）を行うとともに、中長期的な財務基盤の安定化に向けた金融対応として、アグリビジネス投資育成株式会社と連携のうえ出資を行いました。</p>
3 成果(効果)	<p>原発事故によって増加した遊休農地を活用しながら、将来的には 20~30 h a まで規模拡大し、当県タマネギ栽培のトップランナーを目指すという当社の計画の支援につながりました。</p>
4 今後の予定	<p>引き続き「復興支援プログラム」を通じて、被災された農林水産業者の復興支援を継続して参ります。</p>

【選果ライン】



【収穫機】

